

平成 29 年度事業報告

自 平成 29 年 4 月 1 日
至 平成 30 年 3 月 31 日

一般社団法人日本透析医学会

目 次

I. 当法人の事業の状況

常置委員会活動

1. 総務委員会	(1)
2. 財務委員会	(5)
3. 編集委員会	(5)
4. 学術委員会	(6)
5. 統計調査委員会	(7)
6. 専門医制度委員会	(9)
7. 国際学術交流委員会	(12)
8. 評議員選出委員会	(13)
9. 保険委員会	(14)
10. 倫理委員会	(14)
11. 腎不全総合対策委員会	(15)
12. 危機管理委員会	(15)
13. 研究者の利益相反等検討委員会	(16)
14. 男女共同参画推進委員会	(16)

II. 処務の概要

① 役員等に関する事項

(1) 理事	(18)
(2) 監事	(18)
(3) 評議員	(19)
(4) 退任した役員等	(24)
(5) 役員等の報酬等	(24)

② 会員に関する事項 (25)

③ 職員に関する事項 (25)

④ 役員会等に関する事項 (25)

⑤ 許可, 認可, 承認等に関する事項 (30)

⑥ 重要な契約に関する事項 (30)

事業報告の附属明細書

1. 役員以外の法人等の業務執行理事等との重要な兼職状況	(31)
2. その他の記載事項	(32)

I. 当法人の事業の状況

常置委員会活動

1. 総務委員会

1) 年次学術集会

第 62 回日本透析医学会学術集会・総会は、埼玉医科大学総合診療内科 教授 中元秀友会長が主宰し、平成 29 年 6 月 16 日(金), 17 日(土), 18 日(日)の 3 日間、パシフィコ横浜を会場として開催した。今回のテーマは「変革期にきた透析医療—明るい未来を築くために—」を掲げて開催し、参加者は 22,441 名であった。

<会長講演>

「変革期にきた透析医療—明るい未来を築くために—」

<特別講演>

「腎臓病克服への挑戦～日本腎臓学会の取り組み～」, 「高齢者の人工透析と AD」, 「『より良い組織作りがより良い人材を育てる』～箱根駅伝を終えて 3 連覇への追跡～」, 「日本の財政問題と医療の行方」, 「腎不全看護の「知」「技」「心」を育む」, 「AMED のミッション～研究開発の隘路解消に向けて～」, 「新専門医制度とサブスペシャリティ」, 「臨床工学技士誕生 30 周年を記念して、透析医療における臨床工学技士の有るべき姿、過去から現在、そして未来へ」, 「2025 年及びそれ以降の日本の医療と透析診療」, 「平成 30 年医療・介護同時改定 toward & beyond」, 「下肢末梢動脈疾患指導管理加算実現後の重症化予防策の推進について」, 「iPS 細胞を用いた再生医療の現状と展望」

<海外招請講演>

「腹膜硬化症発症のメカニズム～Danger Signal 仮説～」, 「How to spread renal replacement therapy in the developing world」, 「Role of Patient Centered Care in Dialysis Modality Selection」

<教育講演>

「透析医療と医療安全」, 「今後の医療経済と透析治療」, 「生きる権利と死ぬ権利」, 「災害と透析医療～熊本地震を経験して～」, 「透析医療とストレス～良好な関係構築にむけて～」, 「先行的腎移植」, 「これからの腎不全看護と看護教育」, 「透析患者におけるインターベンション治療」, 「地域包括ケアシステムと透析医療～アシスト PD や血液透析患者への応用～」, 「透析患者の終末期支援」, 「透析患者の睡眠障害」, 「材料工学における新たな生体適合性の概念」, 「プロフェSSIONナリズムと医療倫理」, 「Calciphylaxis の病態、診断と治療」

<教育講演 ベーシック>

「腹膜透析 up to date」, 「透析患者に対する食事指導」, 「腎不全患者の輸液療法のポイント」, 「腎不全・透析患者の血管障害と代謝異常」, 「透析医療における CQI 活動」, 「ナノテクノロジーを用いたマイクロダイアライザ」, 「透析患者における薬物使用の注意点」, 「透析患者の認知症」, 「オンライン HDF」, 「透析療法と貧血」, 「透析の質と残腎機能評価」, 「透析患者の肝炎治療」, 「腎移植の現状と将来の展望」, 「透析液清浄化」, 「透析液検査」, 「血液透析における抗凝固法」, 「VA の歴史から学ぶ」, 「末梢動脈病変の治療アプローチ」, 「糖尿病管理とフットケア」, 「日本と海外の透析状況」, 「急性血液浄化技術」, 「ナラティブの手法を用いた腎不全看護」, 「医療統計 ABC」, 「ファブリー病 Up To Date」, 「ペットの腎不全治療」, 「透析患者の糖尿病管理」, 「透析患者と膠原病治療」, 「ADPKD 治療の最前線」, 「医療安全 ABC」, 「透析患者の高血圧治療 UP TO DATE」

<シンポジウム>

「AKI・急性血液浄化」, 「オンライン HDF の可能性を探る」, 「ダイアライザの機能分類は適正か?」, 「腎移植の現状と展望」, 「医療経済の面から透析医療の未来を考える」, 「新 CAPD ガイドラインを考える思

案],「災害時における透析医療」,「日本透析医学会・日本骨形態計測学会合同企画:パネルディスカッション:腎透析患者のカルシウム代謝を骨組織から考える」,「透析患者の血圧管理」,「腎性貧血ガイドラインを再考する:真の標準治療をめざして」,「ターミナルケア 透析継続中止における各透析施設の取り組み」,「高齢透析患者の幸せな生活を求めて」,「小児透析医療の現状と未来」,「透析医療における多職種医療連携 IPW」,「PDOPPS シンポジウム」,「透析導入期と療法選択」,「透析における診療報酬を考える」,「再生医療最前線」,「在宅透析最前線」,「透析患者の癌治療最前線」

<ワークショップ>

「CKD 患者のリハビリテーション」,「CKD 患者における鉄代謝を再考する」,「透析患者の感染症」,「トータルリーナルケアにおける腹膜透析のあり方を再考する」,「各領域におけるアフェレシス技術の展望」,「糖尿病合併腎不全患者の生活管理」,「透析患者のサルコペニア・フレイル」,「二次性副甲状腺機能亢進症治療の新たな知見」,「透析患者の認知症を巡る課題」,「透析患者の末梢動脈疾患 (PAD) とフットケアの意義~早期発見と診療連携の重要性~」,「透析技術におけるプロフェッショナルの条件」,「I-HDF の可能性を探る」,「透析患者の心血管合併症」,「透析患者の栄養評価」,「VA の作成と管理」,「透析患者の呼吸器合併症~感染症を中心に~」,「腎不全治療と地域医療連携」,「眼に見えないを可視化するモニタリング技術」,「腹膜透析推進のための地域連携」,「医療の常識は世間の非常識?」,「透析アクセス 合併症を防ぐには HD PD」,「透析患者の消化器病変~内視鏡治療で成績は向上したか?~」,「伴侶動物腎不全の透析導入と離脱のタイミング」,「透析における臨床研究のあり方」,「透析液組成を再考する」

<学会・委員会企画>

学術委員会・統計調査委員会合同企画:透析疫学における年齢と性差の意味 Epidemiological significance of gender and aging on chronic dialysis, 危機管理委員会企画 1 (医療安全):医療安全への各方面からの取り組み, 学術委員会・統計調査委員会合同企画:Future challenges in renal registry, 統計調査委員会企画:コメディカルのための臨床研究入門, 専門医制度委員会:専門医制度の現状と展開, 男女共同参画推進委員会企画:TSUBASA PROJECT, 統計調査委員会企画:JSDT データをとことん利用する, 学術委員会 血液浄化の機能・効率に関する小委員会:在宅血液透析の施行条件と機能効率, 学術委員会 血液浄化の機能・効率に関する小委員会:パネルディスカッション「透析液濃度の適正管理に関する諸問題」, 学術委員会 血液浄化に関する新技術検討小委員会:血液浄化の変革期に求められる新技術, 男女共同参画推進委員会企画:透析に関わる多職種の男女共同参画の現況と問題点, 保険委員会企画:透析療法における医療と介護の連携, 学術委員会 血液浄化の機能・効率に関する小委員会:特別な機能をもつ S 型血液透析器の特徴と評価法, 危機管理委員会企画 2 (災害対策):直下型地震, 学術委員会企画:Dialysis Therapy, 2016 Year in Review

<国際学術交流委員会プログラム>

The Committee of International Communication for Academic Research (CICAR)
Symposium 1「CKD-MBD in Asian Countries and Regions」, Free Communication 1, Free Communication 2, Symposium 2「The Dialysis History and Status in 2017 of Asian Developing Countries: How is your association for dialysis therapy?」, Invited Lecture 1「Treating diabetic nephropathy patients」, Invited Lecture 2「Long-term effects of atorvastatin in patients with type 2 diabetes mellitus on hemodialysis」

<企業共催シンポジウム>

「CKD-MBD 最近の話題」,「透析医療の次世代概念」,「透析導入期の貧血管理と心合併症」,「PTH とその役割~最新の知見~」,「Focus on phosphorus management~リン管理を科学する~」,「DOPPS Symposium」,「CKD-MBD における血管石灰化治療戦略を考える」

<その他>

6月16日(午前)に医療安全講習会を開催

6月16日（午後）に医療倫理講習会を開催

6月18日（午前）に日本透析医学会認定透析液水質確保に関する研修

2) 通常総会・臨時総会

第62回通常総会開催：平成29年6月15日（木）16:00～横浜市西区みなとみらい1-1-1 パシフィコ横浜会議センター「301+302」において、開催した。定款第30条に基づき、定足数以上の評議員の出席が確認され、本総会は適法に成立した。定款第28条に基づき、第62回日本透析医学会学術集会・総会会長である、中元秀友会長が議長になるべきところ、中元秀友会長は理事長を兼ねているため、通常総会に諮ったところ、副会長を選出するとの議決があり、副会長である岡田浩一が議長を務めた。

各常置委員長から資料に基づき、平成28年度事業報告および平成29年度事業計画の報告があり承認された。平成28年度貸借対照表および正味財産増減計算書等、平成28年度公益目的支出計画実施報告書、監事による監査報告があり承認された。平成32年度第65回日本透析医学会学術集会・総会会長候補として大阪市立大学代謝内分泌病態内科学教授 稲葉雅章先生を理事会で選任されたとの説明があり、本総会で承認された。

また、理事会で承認され、本総会に推薦された、衣笠えり子先生、水口 潤先生の名誉会員表彰と学会賞、奨励賞、コメディカルスタッフ研究助成者に、平成29年6月17日（土）パシフィコ横浜国立大ホール第一会場で授与式を行い、学会賞受賞者の記念講演を開催した。

3) 役員会

(1) 常任理事会・理事会開催：平成29年5月19日・6月15日・12月1日・平成30年3月30日に開催

(2) 監事による監査会開催：平成29年5月16日（火）に開催

4) 透析施設会員名簿の発行

透析施設会員名簿のデータを各施設から集め発行の手続きをとった。

5) 小委員会

(1) 情報管理小委員会

① 学会ホームページの円滑な運営、内容の充実化

a. 学会活動ならびに関連情報の迅速な公開・更新を行った。

b. ホームページのリニューアルを実施した。今後、Englishページを含めさらなる充実化を図るため、現在コンテンツの見直しを検討している。

② 透析装置の通信共通プロトコルの推進

日本医療機器テクノロジー協会の協力を仰ぎながら策定した「血液透析装置の通信共通プロトコル Ver. 4」を委員会報告の形式で透析会誌より刊行した。

(2) 腎不全看護師・栄養管理士育成ならびに腎臓病薬物療法認定薬剤師・専門薬剤師認定・育成に関わる小委員会腎不全看護師育成・腎臓病薬物療法専門認定薬剤師認定制度・日本栄養士会が実施する管理栄養士専門分野別人材育成事業（CKD分野）に関しては本年度問題提起されず活動を行わなかった。

(3) 感染調査小委員会

本小委員会は院内感染の集団発症が発生した時には、関係者の協力を得て機動的に対応するとともに、感染症にかかわる諸問題が発生した場合に迅速に対応するが、今年は昨年実施したHIV患者受け入れに関するアンケート調査結果をまとめて、和文の委員会報告を作成した。なお、公表は英文の委員会報告を先行してRRT誌に投稿することとした。

(4) 統計調査のあり方小委員会

① 統計調査の倫理委員会審査結果の確認を行った。

② 統計調査結果の解析、論文化の計画の明確化、会員施設へのインセンティブを検討した。

③ 公募研究設置案の審議を行った。

④ 統計調査委員会と意見交換を行い、統計調査のIT化、調査結果の適切な公表方法を検討した。

(5) 発展途上国の透析スタッフ育成プログラム小委員会

平成 29 年度発展途上国透析スタッフ育成支援プログラムを、平成 30 年 2 月 18 日から 2 月 26 日の間、東京・神奈川地区と、大阪・奈良地区に分かれて実施した。

具体的には 6 名（カンボジア 2 名、ラオス 2 名、モンゴル 2 名）の研修生が日本の人工腎臓の実際および手術手技などについて研修を実施した。

(6) 本学会のあり方小委員会

日本専門医機構との意見交換を行いながら、一般人にも分かりやすい本学会の立ち位置・特徴などについて検討していくこととしたが、本年度は該当がなかった。

(7) e-ラーニング検討小委員会

① 第 62 回学術集会・総会の教育講演，教育講演ベーシックを収録し，8 月以降 12 月までの間で会員専用ホームページにアップし専門医は単位取得ができるように，専門医制度委員会と意見交換を図った。

また，専門医以外の者もスキルアップのため視聴できるようにしたが，本年度はシステム構築が完成せず，また収録の同意が全て得られなかったため，トライアルとして限定した教育講演を理事監事が視聴した。

② 運用については，ホームページで開始時期を周知することとし，アクセス対象者は，「正会員」，「専攻医を目指す正会員」，「施設会員の施設に所属する医療従事者」とした。

③ e-ラーニングのコンテンツとして，「医療安全」，「倫理」，「感染」，「災害」のテーマは必須事項であることを認識し，演題中に必ず含むように申し入れた結果，第 62 回学術集会・総会では，該当する教育講演を振り替えて全て実施した。

④ 専門医が，1 つのコンテンツを視聴し，設問に正答した場合に，e-ラーニング視聴の単位を何単位にするか，などの詳細については専門医認定小委員会，専門医制度委員会で検討した結果，次のとおり決定し理事会の承認を得た。

a. e-ラーニング問題正答 1 単位 ただし，「教育講演（60 分講演）」を 1 回または「教育講演（30 分講演）」を 2 コマ連続で 1 回視聴し正答すること。

b. e-ラーニング視聴による年間認定単位数上限は 5 単位とする。ただし，年次学術集会に参加し教育講演等を聴講し 5 単位を取得した者を除く。

c. 認定期間 5 年間のうち卒後教育プログラム取得単位数上限は 25 単位とする。

d. 専門医が e-ラーニング視聴により単位の取得をする場合の課金額は，「教育講演（60 分）」1 コマ 1 単位および「教育講演（30 分）」連続した 2 コマ 1 単位 3,000 円とした。

6) 学会との連絡，協力関係

日本医学会（評議員・連絡委員・医学用語委員・代委員）

日本医学会連合

日本医師会

日本慢性腎臓病（CKD）対策協議会

透析療法合同委員会（日本腎臓学会・日本泌尿器科学会・日本移植学会・日本人工臓器学会・日本透析医学会）

内科系学会社会保険連合

臓器移植関連学会協議会

末期腎不全治療説明用小冊子作成

糖尿病性腎症合同委員会（日本糖尿病学会・日本腎臓学会・日本透析医学会・日本病態栄養学会）

登録腎生検予後調査検討委員会

先行的献腎移植申請審査会

日本透析医会との連絡協議会

日本医療器材工業会

感染対策・災害対策・学術交流などに関し関連各学会等と積極的に協力、連携をむすんでいる。

2. 財務委員会

平成 29 年度事業として、日本透析医学会を健全に発展させることを目指して運営した。また、各事業に対して経費節減を心がけ、平成 30 年度予算を作成した。

3. 編集委員会

1) 公式和文誌について

- (1) 日本透析医学会雑誌を毎月 1 冊、2017 年 4 月から 2018 年 3 月までに 12 冊発行した。
発行部数は月平均 17,000 部であった。
また、第 62 回学術集会・総会特別号（抄録集）を Supplement として発行した。
- (2) 2017 年 4 月～2018 年 3 月の投稿数・掲載数は、論文投稿数 84 編、受理数 52 編、掲載された投稿論文 53 編（内訳：原著 18 編、症例報告 29 編、その他 6 編）、採択率は 63%であった。
- (3) 統計調査委員会の年末調査報告「わが国の慢性透析療法の現況」を例年通り掲載した。
- (4) 「Dialysis therapy, 2016 year in review」を 12 号に掲載した。
- (5) 50 巻 11 号（PD 特集）と 51 巻 2 号（AKI 特集）を特集号として発行した。
- (6) 電子ジャーナル 引き続き科学技術振興機構（JST）の J-STAGE にて和文誌の全文を電子ジャーナルとして公開した。

2) 公式欧文誌について：Therapeutic Apheresis and Dialysis（TAD）

欧文誌は、Therapeutic Apheresis and Dialysis（TAD）として、引き続き刊行（2017 年 4 月から 2018 年 3 月までに 6 回刊行）した。2017 年も 2016 年度に引き続き、すべての投稿が Online 経由 100%を継続した。インパクトファクター（IF）は 1.391 であった。

3) 新規公式欧文誌について：Renal Replacement Therapy（RRT）

- (1) 2017 年 1 月 1 日から 2017 年 12 月 31 日の期間で、世界各国から合計 75 編の投稿論文があり、50 編を出版した。アクセプト率は 82%であった。内訳は Research と Review のみならず、Case Report With mini-Review も受理した。このうち、一般社団法人日本透析医学会が著作権を有する Position Statement 論文は 4 編であった。
- (2) 日本腹膜透析医学会、日本臨床腎移植学会、日本急性血液浄化学会、日本腎臓リハビリテーション学会の 4 学会よりオフィシャルジャーナル化の要望があり、本学会を含む 5 学会の公式欧文誌となった。
- (3) associate editor と Editorial Board Member に世界から以下の先生方の参加をいただいた。

Prof Kamyar Kalantar-Zadeh, *UC Irvine Medical Center, USA*

Prof Markus Ketteler, *Klinikum Coburg GmbH, Germany*

Prof Chun-Liang Lin, *Chang Gung University, Taiwan*

Prof Jun Tian, *Qilu Hospital of Shandong University, China* Prof Ko-Lin Kuo, *Tzu Chi University, Taiwan*

Prof Xinjian Li, *the affiliated hospital of Jining Medical College, China*

Prof Yunqi Liu, *Binzhou Medical University Hospital, China*

Prof Chia-Chao Wu, *National Defense Medical Center, Taiwan*

4. 学術委員会

1) 学会賞・奨励賞の選出

<学会賞>

平成 29 年度の学会賞は次の 2 編であり、6 月 17 日の第 62 回学術集会・総会で表彰した。

阿部義史 三井記念病院

Evaluating the association between walking speed and reduced cardio-cerebrovascular events in hemodialysis patients : a 7-year cohort study. Renal Replacement Therapy 2016; 2: 54.

諏訪部達也 虎の門病院腎センター

Suitability of Patients with Autosomal Dominant Polycystic Kidney Disease for Renal ranscatheter Arterial Embolization. Journal of the American Society of Nephrology 2016; 27(7): 2177-87.

<奨励賞>

平成 29 年度の奨励賞は次の 1 編であり、6 月 17 日の第 62 回学術集会・総会で表彰した。

星野純一 虎の門病院

Significance of the decreased risk of dialysis-related amyloidosis now proven by results from Japanese nationwide surveys in 1998 and 2010. Nephrology Dialysis Transplantation 2016; 31(4): 595-602.

2) 学術委員会活動（ガイドライン，提言等の作成，広報活動）等に関する協議

学術委員会の会合を定期的で開催し，学術委員会関連小委員会と共同して行うべき学術活動に関して協議を行った。平成 28 年度に 2009 年度版「腹膜透析ガイドライン」の改訂ワーキンググループを設置して，改訂作業を開始したが，29 年度に引き続きその活動を進める。

3) 新たな公募研究システムの立案

新たな公募研究システムを，学術委員会主体で行うこととし，統計調査委員会と協力して新しい公募研究システムを立ち上げたが，この活動を進める。

4) 栄養問題検討ワーキンググループ（菅野義彦委員長）

前年度から引き続き行ってきた栄養評価の指標につき第 62 回学術集会・総会ワークショップでの委員発表をもとに WG としてのスクリーニング法を提唱し，委員会報告を作成し，投稿準備中である。

5) 腹膜透析ガイドライン改訂ワーキンググループ（伊藤恭彦グループ長）

「日本透析医学会診療ガイドライン作成指針」に則り改訂作業を行っている。

Content 1 に対してワーキングメンバー中心に記述作業，メンバーによって review を行った。

Content 2 では，Systematic Review (SR) メンバー組織にて，Clinical Question (CQ) に対して SR 作業を進めている。

6) 小委員会活動

(1) 学術専門部小委員会（土田健司委員長）

ガイドライン手順書ワーキンググループと協力し，新たな学術システムの構築の一つである Dialysis therapy, 2016 year in review を第 62 回学術集会・総会（平成 29 年 6 月）において委員会企画として開催した。透析会誌 2017; 50(12): 743-769 に「Dialysis therapy. 2016 year in review」として報告した。

(2) 血液浄化療法の機能・効率に関する小委員会・ISO 対策 WG 合同委員会（峰島三千男委員長）

「2016 年版 透析液水質基準」を英文化した“2016 update Japanese Society for Dialysis Therapy Standard of fluids for hemodialysis and related therapies”が RRT の position statement として発刊された。

「特別な機能をもつ血液透析器の特徴と評価法」について委員会報告の形式で透析会誌より発行した。

透析液濃度測定標準化とその管理に関する指針を日本血液浄化技術学会，日本臨床工学技士会との共同で策定した。

第 63 回学術集会・総会における委員会企画セッションを企画した。

ISO 会議に参加し、ISAO の動向について確認した。

＜頻回・長時間血液透析における機能・効率と安全性の検討 WG＞(峰島三千男 WG 長)

在宅血液透析を含む頻回・長時間血液透析の適正かつ安全な治療の実践を目的に、適応、透析処方、患者管理、安全性などの種々の観点について検討し、議論した。

(3) 血液浄化に関する新技術検討小委員会 (山下明泰委員長)

① 第 62 回学術集会・総会 (平成 29 年 6 月) において、委員会で議論した成果を、血液浄化に関する新技術検討小委員会企画「血液浄化の変革期に求められる新技術」にて発表し、多くの出席者を集め、成功裏に終了した。

② かねてより委員会で進行中の複数のプロジェクトについて、臨床応用に近いところにきていることを確認しており、具体化を支援するためのシステム作りについて協議した。

(4) 医師・コメディカルスタッフの教育・研究体制の在り方小委員会 (峰島三千男委員長)

昨年度に引き続き、以下の事業を計画した。

① 体験参加型セッションの開催：ハンズオン研修や meet the expert セッションなどを通じ、会員参加型セッションを企画する。

② 学会ガイドライン・指針・委員会報告の内容を基にしたわかりやすいセミナーの開催
これらの企画を学術総会時に開催するよう総会長へ働きかけたが、採択には至らなかった。

(5) コメディカルスタッフ研究助成基金運営委員会 (友 雅司委員長)

コメディカルスタッフ研究助成基金運営規定に基づき、研究助成金の対象者の選定を行った。
今年度は以下の 2 名への助成が決定した。(敬称略)

① 浦辺俊一郎

「前置換 on-line HDF と後置換 on-line HDF におけるアミノ酸漏出の比較」

② 矢部広樹

「透析中の運動療法が生体の循環動態へ与える影響：透析中と非透析中の比較による検討」

(6) 透析医学用語集作成小委員会 (土谷 健委員長)

透析および関連領域における用語の統一性を確立することで会員の知識および学術的な記載 (論文、学術発表など) に普遍性を持たせる目的で透析医学用語集が作成された。先の透析医学用語集が平成 19 年度のものであり、新しい用語・古くなった用語等もあるので、基本的に用語集を改訂する方針とした。

5. 統計調査委員会

1) 2016 年 12 月 31 日現在のわが国の慢性透析療法の現況調査・報告

(1) 2016 年 12 月 31 日現在のわが国の慢性透析療法の現況調査の速報値を第 62 回学術集会・総会 (横浜) において報告した。

(2) 図説現況は確定データに基づいて作成し、2017 年 12 月に会員施設に送付した。

(3) CD ロムは生存率帳票を整備し、会員施設に送付予定である。

(4) 「わが国の慢性透析療法の現況 (2016 年 12 月 31 日現在)」を日本透析医学会雑誌 50 巻 1 号に掲載した。

(5) 上記の英文化・RRT 誌への投稿作業中である。

(6) 図説現況報告 PPT ファイルの英文化・HP 掲載の準備中である。

2) 2017 年 12 月 31 日現在のわが国の慢性透析療法の現況調査

(1) 2018 年 4 月 1 日現在収集作業中であるが、例年並みの回収状況である。

(2) 透析処方関連の詳細な調査を行った。

3) 「わが国の慢性透析療法の現況 (2015 年 12 月 31 日現在)」

Annual Dialysis Data Report 2015, JSOT Renal Data Registry (JRDR) として、Renal Replacement

Therapy (2018) 4: 19, DOI 10.1186/s41100-018-0149-8 として掲載した。

- 4) 第 62 回学術集会・総会において以下のセッションを開催した。
 - (1) 国際交流委員会・統計調査委員会企画：「Future challenges in renal registry」
 - (2) 学術委員会・統計調査委員会合同企画：「透析疫学における年齢と性差の意味」
 - (3) 統計調査委員会企画
 - ① 「JSDT データをとことん利用する」
 - ② 「コメディカルのための臨床研究入門」
- 5) Web-based Analysis of Dialysis Data Archives (WADDA) システムの稼働
 - (1) ウェブ上の帳票出力システムである WADDA システムを 2017 年 12 月 14 日から稼働を開始した。
 - (2) メンテナンスのため 3 月 12 日から稼働停止
- 6) 研究用データベースファイル切り出しシステムの稼働
学術解析用のデータファイルの出力プログラムを開発し、現在円滑に出力できるように準備している。
- 7) 年次報告書の整理
 - (1) 従来、統計調査結果は「図説 わが国の慢性透析療法の現況 (冊子)」「わが国の慢性透析療法の現況 (CD-ROM 版)」, 透析会誌和文報告書, RRT 誌英文報告書で行ってきた。
 - (2) より効率的で有効な報告手段の在り方について検討を開始した。
- 8) データベースクリーニング
 - (1) データベースクリーニングを行い、2000 年以降の名寄せ作業を完結した。
 - (2) 2000 年より前のデータとの突合について検討を開始した。
 - (3) 導入年別累積生存率の出力方法について再検討を開始した。
- 9) 新たな公募研究システム設置への協力
学術委員会と協力して新たな公募研究システム設立に着手した。
- 10) 過去蓄積データの匿名化について
過去の匿名化データの消去を 2018 年 3 月末日までに行う予定であったが、「匿名加工の医療者向けガイドライン」が整備中であり、それに準拠した形で行う方針に変更した。
- 11) 統計調査データにおける研究活動の推進・論文化
 - (1) 学術委員会等他委員会と協力の上 JRDR データベースの解析, 論文化を解析小委員会を中心に行った。
 - (2) JRDR を用いた研究結果を英文と和文で掲載した。
- 12) 統計調査結果の英語版ホームページの充実
 - (1) JRDR の調査結果を広く海外に発信するために、英語版ホームページを充実させて、PPT, EXCEL ファイルもアップロードする準備に取りかかった。
 - (2) ホームページの充実は情報管理小委員会に参加する形で行った。
- 13) 国内・国際協力の推進
 - (1) US Renal Data System (USRDS) と Australia New Zealand Data System の学術交流会を 2017 年 6 月 16 日 (横浜) で開催した。
 - (2) US Renal Data System (USRDS) との学術交流会を 2017 年 11 月 3 日 (ニューオーリンズ) で開催した。
 - (3) 米国腎臓データシステム (USRDS) に対するデータ提供は、例年通り行った。
- 14) 委託業者の見直し
2017 年末調査から調査委託先を、アイメディアパートナーズからメイテツコムに変更した。

統計解析小委員会

- (1) 学術委員会など学会内諸委員会と協同した各小委員の解析計画をブラッシュアップし解析を進めた。
- (2) 外部委員を招いたデータ解析の研修会を開催した。

地域協力小委員会

- (1) 2017年に新規に開院・閉院した施設を調査し、2017年末アンケート調査送付施設を決定した。2017年末調査回収のため、各地域において、未回収施設に対する電話やFAXによる督促を行った。
- (2) 統計調査への理解を深めるため地域協力員に、統計調査委員会議事録のダイジェスト版を送付した。
- (3) 2017年6月横浜において統計調査地域協力員会を開催し、匿名化調査の進捗状況、地域のニーズのモニタリング、WADDAシステムの説明を行った。

6. 専門医制度委員会

1) 専門医制度委員会

- (1) 生涯教育プログラムを、11地区の地方学術集会で実施した。
- (2) インターベンショナルネフロロジー研究会を全国規模学術集会、中部地区バスキュラーアクセス研究会を地方学術集会として認定した。

2) 研修プログラム小委員会

- (1) 専門研修プログラム第1版を改訂し、専門研修カリキュラムを合冊した第2版を整備した。
- (2) プログラム制だけでなく、カリキュラム制についての検討を開始した。

3) カリキュラム小委員会

- (1) 日本専門医機構専門医制度整備指針に準じて、専門研修トレーニング問題解説集第2版を改訂し、第3版を整備した。専門研修指導マニュアル第2版を関連委員に配布し、ホームページの会員専用ページにアップした。第3版の整備および作製作業は次年度（2018年度）に実施することとした。
- (2) 透析専門医としての「質」を継続維持していくため、本学会専門医の更新を目指す医師を対象とする「セルフトレーニング問題」を導入しており、編集会議でブラッシュアップを行い、その問題を学会誌に掲載し、所定の正答率をクリアした専門医には一定の研修単位（5単位）を認定した。

なお、専門医更新必須条件であるセルフトレーニング問題正答を、認定期間5年の内1回以上正答として義務付けている。申請者に問題・解答用紙（マークシート）を送付し、解答受付期間は5月1日～5月31日まで実施し、問題・正解・解説は8号に掲載した。

- (3) 提出されたe-ラーニング問題のブラッシュアップを行うことを決定した。

4) 専門医認定小委員会

- (1) 留学などで専門医更新できない先生に対して、再取得しやすいように専門医資格喪失者の再受験を緩和した。専門医制度規則第2節第9条第2項の1)から5)を追加し、専門医の資格を喪失した者が再度資格認定を申請する際に、症例実績の提出をしなくてもよいことに緩和した。
- (2) 指導医更新の資格について、専門医の更新と同じ条件に緩和した。
- (3) 専門医認定試験の症例要約審査で、同一施設において内容の類似および考察の完全一致が複数発見され、失格とした。今後は、不正を防止するために、2019年度から、症例要約には、施設の患者ID、年齢、性別、入院日、退院日、受け持ち期間を記載し、教育責任者（又はそれに準ずる責任者）は、受験者の症例を十分チェックし、提出する症例要約すべてに自筆署名するうえ、無作為にサンプリングを実施し、該当する同一の病院サマリーのコピー（ID、生年月日、性別、入院日、退院日、主治医名以外の個人情報に塗りつぶし）を提出し、審査することになった。2018年度は、IDのみを追加し、サンプリングすることとした。なお、2017年度に失格とした2名は、期限付き受験の停止を解除して、専門医の資格認定の申請を認め、多くの症例要約をサンプリングすることとした。
- (4) 症例要約モデル集を一部改訂してホームページに掲載したが、全面的に改訂する必要があるため、文字数を2,000字以内にした改訂作業を行い、2018年3月にホームページに掲載した。今後は、4年に1回程度見直しの必要性を検討する。また、症例要約の内容によっては外来扱いの患者も対象となることがあり、症例

要約の書式を改訂した。

(5) e-ラーニングについては、総務委員会のe-ラーニング検討小委員会より、受講による取得単位数、年間および5年間での最大可能取得単位数、課金金額の審議依頼があり、審議結果を報告し、実施方法などをe-ラーニング検討小委員会で検討中である。

(6) 専門医の適正数と年間育成専攻医数の検討中である。専門医の適正数を検討するためには、専門研修基幹施設数と専門研修連携施設数の把握と専門医の透析患者診療などの把握が必要である。専門医更新時に透析患者の診療などを2016年度より調査しており、2020年度には、実際に透析に従事している専門医数などを把握できる。

5) 専門医試験小委員会

(1) 専門医認定審査は、今までと同様に書類審査、客観式筆記試験（問題形式はAタイプ、X2タイプ）、口頭試問試験の3者の総合的な判断で行い、可否を決定した。

(2) 口頭試験を5段階評価（A, B, C, C-, D）とし、C-は-2点、Dは-5点とし、A~Cでは加点は作らず、さらにR評価（-5点）を追加した。

R 倫理的減点。透析医学会の専門医として人格的、倫理観に問題がある（絶対的評価）（-5点）

D 透析医学会の専門医として最小限の経験、知識、実務能力を有していない（-5点）

C- 透析医学会の専門医として最小限の経験、知識、実務能力を有しているか微妙である（-2点）

C 透析医学会の専門医として最小限の経験、知識、実務能力を有している

B 透析医学会の専門医として優れた経験、知識、実務能力を有している

A 透析医学会の専門医として極めて優れた経験、知識、実務能力を有している

(3) 優良な試験問題を正答率50~70%かつ識別指数0.2~0.4以上と定義し、過去の試験問題の一部をブラッシュアップするとともに新規に問題を作成し、500題をプールの目標とした。

(4) 試験問題をエクセルファイルで、IDと分野分類（大項目・中項目・小項目）により格納し、事務局が管理を行い、専門医試験小委員会委員長とは、パスワード付きのメールで共有している。

(5) 専門医制度における倫理の問題についても審議し昨年同様に啓発し、専門医認定試験にも倫理の問題を出題した。

(6) 不正行為防止のためのサンプリングは、症例要約提出後に、すべての受験者から指定した症例のサマリー-原本複写（1症例）を提出させ、提出した症例要約と比較することとした。

6) 施設認定小委員会

(1) 教育関連施設認定申請書には、認定施設の施設長名と公印が必要だが、教育責任者の欄がなく、教育責任者が認識せずに教育関連施設が認定される場合があったことから、新たに教育関連施設認定申請書に教育責任者の署名欄（自署）を追加することになった。

(2) 認定施設と教育関連施設の更新申請において、1施設ずつ疑義（学会から認定されていない他施設で常勤医）があり、当該施設の施設長から常勤医との証明書が提出された。しかし、他施設のホームページでは常勤医と掲載されているため、専門医制度規則施行細則第9条第3項および第12条に基づいて、施設の実地調査を実施した。認定施設における指導医勤務実態は、指導医としての要件は満たしておらず、更新は不可と判定した。教育関連施設は診療所であるが、病院の敷地が手狭なため、外来部門を隣接（3軒隣、30m横）している診療所に移し、機能を分けたが、実質は1つの病院として運用していること、および診療所外来業務時以外は病院（透析室、病棟部門）で週4日業務を行っていることが電子カルテ上からも確認され、診療所で外来時は、他の医師が透析担当となり、その際も随時、患者の病状に応じ、指示や指導を行っており、必要時透析室へ移動し指導が可能な状況であることが確認され、更新は可と判定した。

7) 専門医認定（専門医認定試験）と更新，指導医認定と更新，認定施設・教育関連施設認定と更新の公示・受付・結果等については下記の通りである。

【2017年度 第28回 専門医認定】

申請受付会告	2017年3号～5号
申請書類受付	2017年6月1日～6月30日
専門医認定試験（筆答試験および口頭試問）	10月15日（第3日曜日）
試験会場	都市センターホテル
申請者数	290名
書類審査不適格者数	4名（うち2名はサマリー失格）
辞退者	7名
書類審査適格者数	279名
客観式筆答試験・口頭試問試験受験者数	276名
客観式筆答試験・口頭試問試験欠席者数	3名
客観式筆答試験・口頭試問試験不適格者数	47名
客観式筆答試験・口頭試問試験適格者数	229名（筆答・口頭試験 合格率 82.9%）
適格者数	229名／290名（合格率 78.9%）

【認定期限 2018年3月31日までの専門医更新総数】

更新申請受付会告	2017年8号～10号
更新申請書類受付	2017年11月1日～11月30日
更新対象者数	956名
更新申請者数	936名
更新適格者数	936名（合格率 100%）

【2017年度 第28回 指導医認定】

申請受付会告	2017年10号～12号
申請書類受付	2018年1月6日～2018年1月31日
申請者数	81名
適格者数	73名（合格率 90.1%）

【認定期限 2018年3月31日までの指導医更新総数】

更新申請受付会告	2017年9号～11号
更新申請書類受付	2017年12月1日～12月31日
更新対象者数	331名
更新申請者数	301名
更新適格者数	299名（合格率 99.3%）

【2017年度 第27回 認定施設・教育関連施設認定】

申請受付会告	2017年4号～6号
申請書類受付	2017年7月15日～8月15日
申請施設（72施設）	
認定施設	20施設
教育関連施設	52施設

適格施設 (71 施設)

認定施設	19 施設 (合格率 95.0%)
教育関連施設	52 施設 (合格率 100%)

【認定期限 2018 年 3 月 31 日までの認定更新施設総数】

更新申請受付会告	2017 年 4 号～6 号
更新申請書類受付	2017 年 7 月 15 日～8 月 15 日

更新対象施設 (155 施設)

認定施設	73 施設
教育関連施設	82 施設

更新申請施設 (136 施設)

認定施設	68 施設
教育関連施設	68 施設

更新適格施設 (133 施設)

認定施設	67 施設 (合格率 98.5%)
教育関連施設	66 施設 (合格率 97.0%)

【各小委員会の認定状況 (2018 年 4 月 1 日現在)】

専門医数	5,762 名	休会者・保留者含む
指導者数	2,002 名	休会者・保留者含む
施設認定数	1,151 施設	(認定施設 483 施設, 教育関連施設 668 施設)

7. 国際学術交流委員会

1) 第 62 回学術集会・総会において、国際学術交流委員会として下記の企画を行った。

I. 招請講演

- (1) Prof. Christoph Wanner (Germany) “Long-term effects of atorvastatin in patients with type 2 diabetes mellitus on hemodialysis” chaired by Nobuhito Hirawa
- (2) Prof. Jer-Ming Chang (Taiwan) “Treating diabetic nephropathy patients” chaired by Takashi Wada

II. シンポジウム

- (1) シンポジウム 1 CKD-MBD in Asian Countries and Regions

Moderators : Masafumi Fukagawa, Yoshitaka Isaka

- ① Prof. Young Joo Kwon (Korea)
- ② Prof. Zhihong Liu (China)
- ③ Dr. Angela Yee Moon Wang (Hong Kong)
- ④ Prof. Kuo-Cheng Lu (Taiwan)
- ⑤ Dr. Bak-Leong Goh (Malaysia)

- (2) シンポジウム 2 The Dialysis History and Status in 2017 of Asian Developing Countries :

How is your association for dialysis therapy?

Moderators : Toru Hyodo, Munekazu Ryuzaki

- ① Prof. Pham Văn Bù (Vietnam)
- ② Prof. HY Chanseila (Cambodia)
- ③ Prof. Khin Thida Twin (Myanmar)

- ④ Prof. Vivekanand Jha (India)
- ⑤ Prof. Kriang Tungsanga (Thailand)
- ⑥ Dr. Coralie Therese Dimacali (Philippine)
- ⑦ Prof. Kenichi Kokubo (Japan)
- ⑧ Prof. Akihiro Yamashita (Japan)

III. シンポジウム（統計調査委員会との共同企画） Future challenges in renal registry

Moderators : Ikuto Masakane, Stephen McDonald

- ① Satoshi Ogata (JSDT, Hiroshima)
- ② Rajiv Saran (USRDS)
- ③ Stephen McDonald (ANZDATA)

IV. 一般講演 Free Communications

例年通り，公募を行った。

V. Farewell Reception

海外からの参加者，演者，国際交流委員，日本透析医学会評議員などの学術交流の場として，大会期間中にアジアの夕べを開催した。Welcome Party については例年通り，サポートを行った。

VI. Travel Grant 等

招請講演演者に対しては，欧米演者は講演料 2000 ドル，交通費 5000 ドル，アジア演者は 1000 ドル，交通費 35000 ドルを支給，シンポジストには欧米演者には講演料 1000 ドル，交通費 3000 ドル，アジア演者には講演料 10 万円，交通費 15 万円支給することとした。一般演題に関しては，World Bank Criteria による Lower-middle income countries, Low-income countries に対して，サポートを厚くすることとした。Lower-middle income countries, Low-income countries については年齢制限はなしとし，travel grant 10 万円（ただし VISA が必要な国からの場合は旅行保険込み），Upper-middle-income countries, High-income countries については 40 歳未満を対象として 5 万円支給とした。一般演題としては 5 か国から 7 演題の発表があり，Travel Grant として 55 万円支給した。

2) 国際交流派遣事業

海外関連学会への交流委員派遣は今年度も見送った。

3) その他

国内外で開催される，関連国際学会へ各委員が独自に参加した。

8. 評議員選出委員会

一般社団法人日本透析医学会 第 4 回評議員選挙

日本透析医学会定款第 20 条，21 条，22 条および日本透析医学会定款施行細則第 13 条，14 条，15 条並びに日本透析医学会評議員選出規則に則り第 4 回評議員の選出を行った。

- 1) 評議員選出規則第 3 条に基づき，選挙は全国統一地区と 7 の地方区に分けて行った。
- 2) 同規則第 6 条に基づき，定数 220 名の評議員を選出しその内 80 名は全国区，140 名は地方区とした。
- 3) 同規則第 7 条に基づき，平成 29 年会誌 10 号に選挙の公示をし，10 月下旬に電子公告を行った。
- 4) 同規則第 9 条第 1 項に基づき，平成 29 年 10 月 1 日現在の有権者名簿を，会誌 10 号に公示し，10 月下旬に電子公告を行った。
- 5) 同条第 2 項に基づき，11 月 20 日までに有権者名簿について，異議の申し立てを受けた。
- 6) 同規則第 11 条第 1 項に基づき，11 月 20 日までに立候補の届け出を受けた。
- 7) 同条第 4 項に基づき，12 月 1 日までに立候補の辞退を受けたが，辞退の申し出はなかった。
- 8) 同規則第 12 条に基づき，候補者の氏名を平成 29 年会誌 12 号に公示し，12 月下旬に電子公告を行った。

- 9) 同規則第 13 条に基づき、平成 30 年 2 月 15 日に投票を締め切った。
- 10) 同規則第 16 条に基づき、投票終了後 2 月 22 日に開票立会人のもとに、開票を行った。
- 11) 同規則第 21 条に基づき、当選者を決定し、当選者に通知し、会誌に公示し、電子公告を行った。
- 12) 同規則第 22 条に基づき、選挙結果発表日より 14 日以内に選挙効力に関し異議申し立てを受けたが、申し立てはなかった。

9. 保険委員会

平成 30 年度の保険改定に向けて内科系社会保険連合会の血液浄化委員会、日本腎臓学会、日本小児腎臓学会、日本アフレス学会、日本急性血液浄化学会、日本腹膜透析医学会、日本透析医会と連携して提案項目の検討を行い、内保連を通じて厚生労働省に提案した。

要望について本会より人工腎臓、月当たりの回数制限の是正：過去 2 年、週 3 回の維持透析では管理できない、NYHAⅢ度以上の心不全、心臓超音波検査にて心は駆出率 30% 以下症例に対して月 16 回までの回数を認可申請したが、認可は得られなかった。本年度の診療報酬改定での、透析時間による報酬の変動が複雑な透析濾過において認められたことに吸収されるかたちとなった。

第 62 回学術集会・総会において「透析療法における医療と介護の連携」というテーマで保険委員会企画を行った。

透析液水質確保に関する研修を第 62 回学術集会・総会および専門医制度委員会が認定している地方学術集会ならびに全国規模学術集会において実施した。

高齢化社会に向けた在宅医療の検討小委員会

今年度は委員会会合をもたなかった。

10. 倫理委員会

1) 倫理委員会の開催

- (1) 統計調査臨床研究倫理審査について審議し承認した。
- (2) 検討小委員会が審査を経て承認し報告のあった研究倫理審査 16 件について、承認し理事長に答申し申請者に通知した。
- (3) 透析調査委員会による統計調査を用いた研究倫理審査に関わる規程および様式等の改正案を審議し、理事会に諮問し承認を得た。

2) 研究倫理に関する検討小委員会の開催

研究倫理審査の申請があった 16 件の予備審査および検討小委員会の審査を経て承認し倫理委員会に報告した。

3) 個人情報管理

個人情報（評議員、正会員氏名、所属）の提供依頼があり

- (1) 個人情報管理者の承認を得るもの（規則第 4 条関係）
11 件申請があり、いずれも承認した。
- (2) 個人情報管理者、理事長、常任理事の合意で決定し、理事会の承認を得るもの（規則第 8 条関係）
本件の申請はなかった。

11. 腎不全総合対策委員会

当委員会の2017年度の活動としては、地域における腎不全医療アクセスに関するアンケートの準備が整い、それを実際に進め、その経験から調査範囲の拡大が可能かを検討した。また、従来からの、CKD総合対策の一環として、他学会と協力し、腎移植、腹膜透析の普及活動を継続して進めた。

1) 地域における腎不全医療アクセスの問題点の解析

CKD患者数に比べ、透析導入の数が少ないなど、非専門医から腎臓専門医や透析医へのアクセスに問題がある可能性のある地域に注目し、その連携の問題点と解決策を明らかにするために、腎臓内科、透析のない施設に対して「地域における腎疾患治療の現状に関するアンケート」を行うこととし、具体的なアンケート内容を検討の後、まず岩手県において、大学、医師会等の協力をあおいで、アンケート調査を開始した。この経験をもとに、さらに調査範囲を広げるための準備を開始した。また、この問題に関するシンポジウムを、2018年6月の学術大会での委員会企画として提案した。

2) 慢性腎臓病（CKD）対策に関して、関係学会との協力を推進する。

- (1) 日本腎臓学会、厚生労働省が支援している進行性腎障害に関する調査研究班、本学会統計調査委員会と協力し有益なデータ解析が行えるような体制を継続して強化した。小児についても、日本小児腎臓病学会を加えた上記機構で同様に進めた。
- (2) 厚生労働省が支援し、現在日本腎臓学会で行われている、CKD重症予防対策についても継続して協力した。
- (3) 保存期の患者教育用の新しい冊子の作成に関して、日本腎臓学会との意見交換を行った。
- (4) 腎臓病SDM推進協会が作成した治療法選択の冊子に対して、意見をまとめた。

12. 危機管理委員会

1) 危機管理委員会

透析医療における安全管理、災害と透析医療をテーマとした学術活動の提案、関連団体の学術活動への協力を行った。

2) 災害対策小委員会（山川智之小委員長）

- (1) 第62回学術集会・総会（2017年6月18日：パシフィコ横浜）において、災害に関する委員会企画「直下型地震」を下記の内容で行った。

司会 山川智之、安藤亮一

- ① 木全直樹「首都直下型地震における被害予想」
- ② 久木山厚子「熊本地震の対応」
- ③ 奈倉勇爾「東京西北・埼玉南西部災害時透析医療ネットワークの活動状況について」
- ④ 雨宮守正「埼玉県における透析災害対策のマネジメント-1」
- ⑤ 土井研人「直下型地震におけるAKI対策」
- ⑥ 赤塚東司雄「直下型地震の対策」

これらの発表内容を委員会報告としてまとめて日本透析医学会雑誌に掲載した（山川智之、赤塚東司雄、木全直樹、雨宮守正、土井研人、久木山厚子、奈倉勇爾、安藤亮一：危機管理委員会報告：直下型地震、透析会誌50(12)：777-782, 2017)

- (2) 透析医学会ホームページの「一般の方へ」>「災害に備えて」に掲載するコンテンツとして、宮崎専門委員を中心に「患者さん自身でできる日ごろからの災害対策」、「透析を受けている患者さんへ～大災害に備えて（まとめ）」、「透析患者さんへ～災害に備えて」を作成した。
- (3) 第63回学術集会・総会（6月29日～7月1日、神戸国際会議場ほか）において、「透析施設の現場にお

ける災害対策の課題」をテーマにした危機管理委員会企画を計画した。

(4) 日本透析医学会の理事、危機管理委員会、統計調査委員会、地域協力員は引き続き日本透析医学会の災害対策メーリングリストに参加し、災害時の緊急情報の共有ならびに支援体制の構築にむけて関連団体と協力した。

3) 医療安全対策小委員会（安藤亮一小委員長）

(1) 第62回学術集会・総会（2017年6月16日：パシフィコ横浜）において、医療安全に関する委員会企画「医療安全への各方面からの取り組み」を下記の内容で行った。

司会 山川智之，安藤亮一

① 安藤亮一「オーバービュー～医療安全への各方面からの取り組み」

② 鶴田良成「愛知県透析医会でのレベル3以上の医療事故報告の取り組み」

③ 遠藤ミネ子「抜針事故対策の現状と課題」

④ 小野信行「透析装置に関する事故対策」

⑤ 中井 歩，山家敏彦「当院における医療安全への取り組み～指差し呼称の定着とその有効性に関する検討」

これらの発表内容を委員会報告としてまとめて日本透析医学会雑誌に掲載した（安藤亮一，鶴田良成，遠藤ミネ子，小野信行，本間 崇，中井 歩，山家敏彦，山川智之：危機管理委員会報告：医療安全への各方面からの取り組み，透析会誌 50(12)：771-776，2017）。

(2) 医療事故調査報告制度に協力団体として登録しているが，医療事故調査・支援センターからの依頼で調査委員を派遣して，事故事例のセンター調査を担当した。

(3) 日本医療安全調査機構（医療事故調査・支援センター）のアナフィラキシー専門分析部会部会員として，岡戸調査委員を派遣し，「医療事故の再発防止に向けた提言 第3号注射剤によるアナフィラキシーに係る死亡事例の分析」の作成を担当した。

(4) 厚生労働省等から報告される，薬剤・医療器具などに関する緊急安全情報の中で，透析医療に関わるものについて，日本透析医学会ホームページを利用して会員に周知を図った。

(5) 調査委員の移動にともなって，一部調査委員の変更を行った。

13. 研究者の利益相反等検討委員会

「日本透析医学会医学研究の利益相反に関する指針」に基づき，利益相反状態に関連した以下の事項を実施した。

1) 会員が総会等で発表する際の利益相反状態に関する情報開示

2) 会員が学会誌に投稿する際の利益相反状態に関する報告書の提出

3) 本学会の役員（理事長，理事，監事），総会会長，委員会委員長，特定の委員会ならびにその作業部会委員の利益相反状態に関する自己申告書の提出

なお，会員の利益相反状態に関する疑義の指摘が1件寄せられた。本委員会にて慎重に審査した結果，指針に違反していないことを確認した。

14. 男女共同参画推進委員会

1) 多職種の男女共同参画に関する小委員会

(1) 第62回学術集会・総会において，委員会企画「透析施設における男女共同参画」を行った。発表した内容は論文化し，日本透析医学会ホームページに掲載するとともに，日本透析医学会雑誌へ投稿した。

(2) 「男女共同参画を推進している施設の紹介」を日本透析医学会ホームページ上に掲載した。紹介施設は東北大学血液浄化療法部，徳島大学病院透析室，順天堂大学腎臓内科，北野病院血液浄化センター，聖隷横浜病院の5施設。

2) 女性医師育成小委員会

- (1) 第1回「TSUBASA PROJECT」において、女性医師育成委員会委員が7名の女性医師にメインテーマ“Gender”とした研究の指導を行った。研究経過は第62回学術集会・総会の委員会企画「TSUBASA PROJECT」で報告し、日本透析医学会ホームページ上に掲載した。
- (2) 「第2回 TSUBASA PROJECT」を企画した。
- (3) 「第3回 TSUBASA PROJECT」は男女共同参画推進委員会主導型の研究として平成30年に参加者を募集することにした。

Ⅱ. 処務の概要

① 役員等に関する事項

(1) 理事

役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	他の法人等の代表状況等
理事長	中元秀友	平成28年6月9日～ 選任後2年以内に終了する事業 年度の最終の総会終結時まで	非常勤	なし	
常任理事	稲葉雅章	同	非常勤	なし	
同	重松隆	同	非常勤	なし	
同	新田孝作	同	非常勤	なし	
理事	安藤亮一	同	非常勤	なし	
同	猪阪善隆	同	非常勤	なし	
同	岡田一義	同	非常勤	なし	
同	熊谷裕生	同	非常勤	なし	
同	武本佳昭	同	非常勤	なし	
同	土田健司	同	非常勤	なし	
同	土谷健	同	非常勤	なし	
同	鶴屋和彦	同	非常勤	なし	
同	友雅司	同	非常勤	なし	
同	深川雅史	同	非常勤	なし	
同	藤元昭一	同	非常勤	なし	
同	政金生人	同	非常勤	なし	
同	峰島三千男	同	非常勤	なし	
同	森石みさき	同	非常勤	なし	
同	八木澤隆	同	非常勤	なし	
同	吉田克法	同	非常勤	なし	

(2) 監事

役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	他の法人等の代表状況等
監事	宍戸寛治	平成28年6月9日～ 選任後2年以内に終了する事業 年度の最終の総会終結時まで	非常勤	なし	
同	仲谷達也	同	非常勤	なし	
同	吉田一成	同	非常勤	なし	

(3) 評議員

	役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	備考
1	評議員	赤井靖宏	平成28年6月9日～選任後2年以内に終了する事業年度の最終の総会終結時まで	非常勤	なし	
2	同	朝田啓明	同	非常勤	なし	
3	同	浅野友彦	同	非常勤	なし	
4	同	阿部貴弥	同	非常勤	なし	
5	同	阿部雅紀	同	非常勤	なし	
6	同	雨宮守正	同	非常勤	なし	
7	同	荒川俊雄	同	非常勤	なし	
8	同	有蘭健二	同	非常勤	なし	
9	同	有村徹朗	同	非常勤	なし	
10	同	安藤哲郎	同	非常勤	なし	
11	同	安藤亮一	同	非常勤	なし	
12	同	家原典之	同	非常勤	なし	
13	同	井尾浩章	同	非常勤	なし	
14	同	猪阪善隆	同	非常勤	なし	
15	同	石井大輔	同	非常勤	なし	
16	同	石田陽一	同	非常勤	なし	
17	同	石橋由孝	同	非常勤	なし	
18	同	和泉雅章	同	非常勤	なし	
19	同	井手健太郎	同	非常勤	なし	
20	同	伊藤哲二	同	非常勤	なし	
21	同	伊藤裕	同	非常勤	なし	
22	同	伊東稔	同	非常勤	なし	
23	同	伊藤恭彦	同	非常勤	なし	
24	同	稲熊大城	同	非常勤	なし	
25	同	稲葉雅章	同	非常勤	なし	
26	同	今田崇裕	同	非常勤	なし	
27	同	今田直樹	同	非常勤	なし	
28	同	今福俊夫	同	非常勤	なし	
29	同	岩谷博次	同	非常勤	なし	
30	同	植木嘉衛	同	非常勤	なし	
31	同	植田敦志	同	非常勤	なし	
32	同	宇田晋	同	非常勤	なし	
33	同	内田信一	同	非常勤	なし	
34	同	大城戸一郎	同	非常勤	なし	
35	同	大田和道	同	非常勤	なし	
36	同	大山力	同	非常勤	なし	
37	同	岡田一義	同	非常勤	なし	

	役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	備考
38	同	岡田浩一	同	非常勤	なし	
39	同	尾形聡	同	非常勤	なし	
40	同	緒方浩顕	同	非常勤	なし	
41	同	岡戸丈和	同	非常勤	なし	
42	同	小川哲也	同	非常勤	なし	
43	同	小川智也	同	非常勤	なし	
44	同	奥野仙二	同	非常勤	なし	
45	同	小倉誠	同	非常勤	なし	
46	同	小野寺一彦	同	非常勤	なし	
47	同	角田隆俊	同	非常勤	なし	
48	同	笠井健司	同	非常勤	なし	
49	同	風間順一郎	同	非常勤	なし	
50	同	春日弘毅	同	非常勤	なし	
51	同	金井英俊	同	非常勤	なし	
52	同	要伸也	同	非常勤	なし	
53	同	金山博臣	同	非常勤	なし	
54	同	金子佳照	同	非常勤	なし	
55	同	金田幸司	同	非常勤	なし	
56	同	上條祐司	同	非常勤	なし	
57	同	川合徹	同	非常勤	なし	
58	同	河田哲也	同	非常勤	なし	
59	同	菅政治	同	非常勤	なし	
60	同	神田英一郎	同	非常勤	なし	
61	同	菅野義彦	同	非常勤	なし	
62	同	北村健一郎	同	非常勤	なし	
63	同	木全直樹	同	非常勤	なし	
64	同	久野勉	同	非常勤	なし	
65	同	熊谷裕生	同	非常勤	なし	
66	同	倉賀野隆裕	同	非常勤	なし	
67	同	小岩文彦	同	非常勤	なし	
68	同	古波蔵健太郎	同	非常勤	なし	
69	同	小林絵美	同	非常勤	なし	
70	同	小林正貴	同	非常勤	なし	
71	同	小松康宏	同	非常勤	なし	
72	同	小薮助成	同	非常勤	なし	
73	同	齋藤修	同	非常勤	なし	
74	同	齋藤満	同	非常勤	なし	
75	同	酒井謙	同	非常勤	なし	
76	同	酒井行直	同	非常勤	なし	
77	同	坂口美佳	同	非常勤	なし	

	役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	備考
78	同	櫻田 勉	同	非常勤	なし	
79	同	佐藤 滋	同	非常勤	なし	
80	同	佐藤 武司	同	非常勤	なし	
81	同	佐藤 壽伸	同	非常勤	なし	
82	同	佐藤 正嗣	同	非常勤	なし	
83	同	佐藤 元美	同	非常勤	なし	
84	同	里中 弘志	同	非常勤	なし	
85	同	重松 隆	同	非常勤	なし	
86	同	穴戸 寛治	同	非常勤	なし	
87	同	柴垣 有吾	同	非常勤	なし	
88	同	柴田 茂	同	非常勤	なし	
89	同	柴原 伸久	同	非常勤	なし	
90	同	島田 久基	同	非常勤	なし	
91	同	島野 泰暢	同	非常勤	なし	
92	同	庄司 哲雄	同	非常勤	なし	
93	同	常喜 信彦	同	非常勤	なし	
94	同	新宅 究典	同	非常勤	なし	
95	同	杉浦 寿央	同	非常勤	なし	
96	同	杉本 俊門	同	非常勤	なし	
97	同	杉山 齐	同	非常勤	なし	
98	同	鈴木 一裕	同	非常勤	なし	
99	同	鈴木 祐介	同	非常勤	なし	
100	同	清野 耕治	同	非常勤	なし	
101	同	副島 一晃	同	非常勤	なし	
102	同	鷹津 久登	同	非常勤	なし	
103	同	高橋 計行	同	非常勤	なし	
104	同	竹内 康雄	同	非常勤	なし	
105	同	武本 佳昭	同	非常勤	なし	
106	同	田中 元子	同	非常勤	なし	
107	同	田邊 一成	同	非常勤	なし	
108	同	谷口 正智	同	非常勤	なし	
109	同	玉井 宏史	同	非常勤	なし	
110	同	玉垣 圭一	同	非常勤	なし	
111	同	田村 禎一	同	非常勤	なし	
112	同	田村 雅仁	同	非常勤	なし	
113	同	丹野 有道	同	非常勤	なし	
114	同	土田 健司	同	非常勤	なし	
115	同	土谷 健	同	非常勤	なし	
116	同	土谷 順彦	同	非常勤	なし	
117	同	鶴岡 秀一	同	非常勤	なし	

	役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	備考
118	同	鶴屋和彦	同	非常勤	なし	
119	同	寺田典生	同	非常勤	なし	
120	同	土井研人	同	非常勤	なし	
121	同	土井盛博	同	非常勤	なし	
122	同	徳本正憲	同	非常勤	なし	
123	同	友雅司	同	非常勤	なし	
124	同	長井幸二郎	同	非常勤	なし	
125	同	中岡明久	同	非常勤	なし	
126	同	長岡由女	同	非常勤	なし	
127	同	中里優一	同	非常勤	なし	
128	同	中田純一郎	同	非常勤	なし	
129	同	仲谷達也	同	非常勤	なし	
130	同	長沼俊秀	同	非常勤	なし	
131	同	中村道郎	同	非常勤	なし	
132	同	中元秀友	同	非常勤	なし	
133	同	中山晋二	同	非常勤	なし	
134	同	名波正義	同	非常勤	なし	
135	同	鍋島邦浩	同	非常勤	なし	
136	同	成田一衛	同	非常勤	なし	
137	同	西一彦	同	非常勤	なし	
138	同	西慎一	同	非常勤	なし	
139	同	西川慶一郎	同	非常勤	なし	
140	同	錦戸雅春	同	非常勤	なし	
141	同	西野友哉	同	非常勤	なし	
142	同	新田孝作	同	非常勤	なし	
143	同	新田豊	同	非常勤	なし	
144	同	根木茂雄	同	非常勤	なし	
145	同	野口智永	同	非常勤	なし	
146	同	橋本哲也	同	非常勤	なし	
147	同	橋本寛文	同	非常勤	なし	
148	同	蓮池由起子	同	非常勤	なし	
149	同	長谷弘記	同	非常勤	なし	
150	同	長谷川毅	同	非常勤	なし	
151	同	波多野道康	同	非常勤	なし	
152	同	服部元史	同	非常勤	なし	
153	同	花房規男	同	非常勤	なし	
154	同	濱田千江子	同	非常勤	なし	
155	同	林晃一	同	非常勤	なし	
156	同	速見浩士	同	非常勤	なし	
157	同	原田浩	同	非常勤	なし	

	役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	備考
158	同	春口洋昭	同	非常勤	なし	
159	同	樋口千恵子	同	非常勤	なし	
160	同	樋口輝美	同	非常勤	なし	
161	同	兵藤透	同	非常勤	なし	
162	同	平和伸仁	同	非常勤	なし	
163	同	廣谷紗千子	同	非常勤	なし	
164	同	深川雅史	同	非常勤	なし	
165	同	深澤瑞也	同	非常勤	なし	
166	同	藤井秀毅	同	非常勤	なし	
167	同	藤元昭一	同	非常勤	なし	
168	同	測之上昌平	同	非常勤	なし	
169	同	古井秀典	同	非常勤	なし	
170	同	古瀬洋	同	非常勤	なし	
171	同	古谷隆一	同	非常勤	なし	
172	同	洞和彦	同	非常勤	なし	
173	同	本田浩一	同	非常勤	なし	
174	同	前田益孝	同	非常勤	なし	
175	同	前野七門	同	非常勤	なし	
176	同	政金生人	同	非常勤	なし	
177	同	正木浩哉	同	非常勤	なし	
178	同	松岡哲平	同	非常勤	なし	
179	同	松下和通	同	非常勤	なし	
180	同	松田昭彦	同	非常勤	なし	
181	同	松橋尚生	同	非常勤	なし	
182	同	松原雄	同	非常勤	なし	
183	同	丸山範晃	同	非常勤	なし	
184	同	満生浩司	同	非常勤	なし	
185	同	峰島三千男	同	非常勤	なし	
186	同	三股浩光	同	非常勤	なし	
187	同	宮崎真理子	同	非常勤	なし	
188	同	宮田昭	同	非常勤	なし	
189	同	宮本賢一	同	非常勤	なし	
190	同	向山政志	同	非常勤	なし	
191	同	村上円人	同	非常勤	なし	
192	同	森典子	同	非常勤	なし	
193	同	森石みさき	同	非常勤	なし	
194	同	八木澤隆	同	非常勤	なし	
195	同	矢内充	同	非常勤	なし	
196	同	柳田太平	同	非常勤	なし	
197	同	山内淳	同	非常勤	なし	

	役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	備考
198	同	山縣邦弘	同	非常勤	なし	
199	同	山川智之	同	非常勤	なし	
200	同	山下明泰	同	非常勤	なし	
201	同	山中正人	同	非常勤	なし	
202	同	山本裕康	同	非常勤	なし	
203	同	湯澤由紀夫	同	非常勤	なし	
204	同	横尾隆	同	非常勤	なし	
205	同	横山啓太郎	同	非常勤	なし	
206	同	横山建二	同	非常勤	なし	
207	同	横山仁	同	非常勤	なし	
208	同	吉田一成	同	非常勤	なし	
209	同	吉田克法	同	非常勤	なし	
210	同	吉田理	同	非常勤	なし	
211	同	吉田英昭	同	非常勤	なし	
212	同	吉本充	同	非常勤	なし	
213	同	吉矢邦彦	同	非常勤	なし	
214	同	米田龍生	同	非常勤	なし	
215	同	竜崎崇和	同	非常勤	なし	
216	同	脇野修	同	非常勤	なし	
217	同	鷺田直輝	同	非常勤	なし	
218	同	和田篤志	同	非常勤	なし	
219	同	和田隆志	同	非常勤	なし	

(4) 退任した役員等
該当なし

(5) 役員等の報酬等

区分	人数	報酬等の総額	備考
理事	20名	なし	
監事	3名	なし	
評議員	219名	なし	
合計	242名		

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
平成 30 年 3 月 30 日 第 4 回理事会	17. 専門医制度規則施行細則第 9 条第 3 項に該当する施設への実地調査に関する件 18. 全国規模学術集会認定取消に関する件 19. 過去の匿名化データの消去に関する件 20. 図説 現況と和文報告書の一本化について 21. WADDA システムの再開について 22. CD ロム版わが国の慢性透析療法の現況の将来的廃止について 23. 委員会研究の理事会審議について 24. システムチェックレビュー (SR) の論文投稿に関する件 25. ホームページ再リニューアルに関する件 26. RRT 誌の HP デザインに関する件 27. 委員会報告「透析施設の HIV 感染者受け入れ状況」 28. 透析機器設置時における管理基準についてのアンケート調査 (案) に関する件 29. 会告 透析液水質確保に関する研修に関する件 30. 「腎臓病あなたに合った治療法を選ぶために」に関する件 31. 第 62 回 (平成 29 年) 学術集会・総会の決算に関する件 32. 第 63 回 (平成 30 年) 学術集会・総会に関する件 33. 第 64 回 (平成 31 年) 学術集会・総会に関する件 34. 第 65 回 (平成 32 年) 学術集会・総会に関する件 35. 平成 30 年度理事会日程に関する件	全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 継続審議 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 継続審議 全会一致で承認 全会一致で承認 RRT に投稿することで 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認

(2) 総 会

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
平成 29 年 6 月 15 日 通常総会	1. 日本透析医学会定款施行細則の一部改正に関する件 2. 平成 28 年度 貸借対照表及び正味財産増減計算書等についての承認に関する件 3. 名誉会員の推薦に関する件 4. 第 65 回総会並びに会長に関する件	全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認

(3) 各種委員会

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
・総務委員会 ・財務委員会 平成 30 年 3 月 12 日	「該 当 な し」 1. 平成 30 年度 新規事業計画に伴う概算要求 (案) について 2. 平成 30 年度 予算 (案) について	全会一致で承認 全会一致で承認
・編集委員会 欧文誌運営委員会 平成 29 年 6 月 16 日 和文誌運営委員会	1. RRT 誌を公式欧文誌とする学会の追加 2. RRT 誌への投稿増加策 3. RRT 誌の宣伝・広報のアイデア 4. RRT 誌の英語校正システムについての意見集約 5. RRT 誌査読システムの国際化 6. RRT 誌の Web 上検索 7. TAD 誌との関係に対する意見集約 「該 当 な し」	全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 継続審議

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
・ 学術委員会 平成 29 年 5 月 2 日	1. 学会賞・奨励賞の選考に関する件 2. 名誉会員・学会賞・奨励賞およびコメディカルスタッフ研究助成授与式に関する件 3. 「奇形」に関する件 4. 腎臓病患者の栄養問題についての各種学会団体との連携	全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認
学術委員会・学術専門部 小委員会合同会議 平成 29 年 10 月 27 日	1. 公募研究の件 2. 学術委員会・学術専門部小委員会と統計調査委員会との連携による研究テーマ等の構築 3. 来年の JSDT 大会 year in review 2017 (2018 年大会において) 4. 腹膜透析 GL 改訂の進捗状況 5. 日本栄養療法協議会 ワーキンググループ 委員派遣の件 6. 山梨県における RO 膜目詰まり事象に関する実態調査に関する件 7. カフ付きカテーテルの適正使用に関する委員会報告(仮)作成について 8. 日本臨床工学技士会刊「2016 年版透析液水質基準達成のための手順書 Ver1.01」の慣習とホームページ等の周知に関する件 9. 2018 年大会における、学術委員企画	全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 報告・承認 全会一致で承認 全会一致で承認 継続審議 全会一致で承認 全会一致で承認
・ 統計調査委員会 平成 29 年 5 月 19 日	1. 2016 年末調査まとめ 2. 2016 年末調査の図説現況・CD-ROM の作成について 3. 2014 年末の報告 4. 2017 年末調査項目、選択肢の検討とスケジュールの確認 5. 学術委員会からの依頼事項 6. 倫理指針改正について 7. IMP について 8. JSDT 企画などについて 9. 統計調査委員会と解析小委員会の正式名称	報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認
平成 29 年 7 月 7 日	1. 2016 年末調査のまとめ 2. 2016 図説現況掲載内容の検討 3. 2016 図説現況 CD-ROM の作成方針 4. 2017 年調査のスケジュール確認と調査項目、選択肢の検討 5. WADDA システムについて 6. 「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針(平成 29 年 2 月 28 日一部改正) について 7. 第 62 回学術集会時の報告 8. 第 63 回学術集会 委員会企画 共同企画 (案) 9. 学術委員会からの統計データ解析計画	報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認
平成 29 年 9 月 8 日	1. 2017 年度の新規委託業者のメイテツコムの紹介 2. 2017 年調査の調査項目、選択肢の決定 3. 2017 年調査、実施詳細の確認と今後のスケジュールの確認 4. 2016 年調査 名寄せ処理と DB 作成の報告 5. 2016 年図説現況, CD-ROM 作成等 6. 2015 年現況 RRT への投稿状況 7. あり方委員会 (8/11)・倫理委員会 (9/6) の報告 8. WADDA システムデータ 9. 解析小委員会 研究進捗状況報告 10. HP リニューアル	報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
平成 29 年 12 月 8 日 平成 30 年 2 月 22 日	8. 評議員選出規則の一部改正（案）について 9. 開票立会人の選出について 1. 開票立会人について 2. 第 4 回評議員選出に関わる開票について 3. 第 4 回評議員当選に関わる公示について 4. 選挙効力に関して異議の申し立てについて 5. 当選者の繰上げ, 補充について	継続審議 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認
・保険委員会 平成 29 年 3 月 17 日	1. 内保連腎血液浄化関連委員会の各学会の平成 30 年診療報酬改定への提案書の検討 2. 日本臨床工学技士会の見解 3. その他	報告・承認 報告・承認 報告・承認
・倫理委員会 平成 29 年 9 月 6 日	1. 統計調査データを用いた二次研究（個別研究）について 2. 改正倫理への妥当性について 3. 「日本透析医学会統計調査」への参加に対する倫理的内容の妥当性について 4. 「日本透析医学会統計調査」実施計画書（案）第 3 版について	報告・承認 報告・承認 修正・承認 修正・承認
・腎不全総合対策委員会	「該 当 な し」	
・危機管理委員会 平成 29 年 10 月 6 日	1. 本日開催された医療安全対策小委員会および災害対策小委員会の報告 2. 透析医学会 HP の災害時対応のコンテンツ 3. 統計調査項目の要望 4. 医療事故調査および調査委員の変更	報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認
・研究者の利益相反等 検討委員会	「該 当 な し」	
・男女共同参画推進委員会	「該 当 な し」	

⑤ 許可, 認可, 承認等に関する事項

申請月日	申請事項	許可等月日	備考
	「該 当 な し」		

⑥ 重要な契約に関する事項

契約年月日	相手方	契約の概要
	「該 当 な し」	

事業報告の附属明細書

1. 役員その他の法人等の業務執行理事等との重要な兼職状況

区 分	氏 名	兼 職 先 法 人 等	兼職の内容	関 係
理事長	中 元 秀 友	特定非営利活動法人 日本腹膜透析医学会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本急性血液浄化学会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本腎臓リハビリテーション学会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本医工学治療学会	理 事	一 部
		公益社団法人 日本臨床工学技士会	理 事	一 部
		日本慢性腎臓病対策協議会	副理事長	一 部
		一般社団法人 埼玉医科大学医師会	理 事	
		特定非営利活動法人 LINE	代表理事	
常任理事	稲 葉 雅 章	一般社団法人 日本骨粗鬆症学会	理 事	
		日本骨形態計測学会	理 事	
		日本運動療法学会	理 事	
		日本疲労学会	理 事	
		一般社団法人 日本マグネシウム学会	理 事	
		公益財団法人 大阪腎バンク	理 事	
	重 松 隆	一般財団法人 和歌山腎臓財団	理事長	一 部
		公益財団法人 和歌山県角膜・腎臓移植推進協会	副理事長	一 部
		一般社団法人 日本アフェレシス学会関西地方会	代表理事	一 部
		一般社団法人 日本腎臓学会西部部会	理 事	一 部
		公益財団法人 わかやま移植医療推進協会	評議員	一 部
	新 田 孝 作	一般社団法人 日本腎臓学会	理 事	
		日本慢性腎臓病対策協議会	理 事	
認定特定非営利活動法人 腎臓病早期発見推進機構		理 事		
理 事	安 藤 亮 一	一般社団法人 日本人工臓器学会	理 事	一 部
		一般社団法人 三多摩腎疾患治療医会	副理事長	一 部
		公益社団法人 日本透析医会	理 事	一 部
		一般社団法人 日本CKD-MBD研究会	理 事	一 部
	猪 阪 善 隆	一般社団法人 日本腎臓学会	幹 事	一 部
	岡 田 一 義	認定特定非営利活動法人 腎臓病早期発見推進機構	理 事	
		日本慢性腎臓病対策協議会	理 事	
	熊 谷 裕 生	日本循環制御医学会	理 事	関係なし
	武 本 佳 昭	特定非営利活動法人 日本 HDF 研究会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本アクセス研究会	監 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本 HPM 研究会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本腹膜透析医学会	監 事	一 部
	土 田 健 司	特定非営利活動法人 日本アクセス研究会	理 事	一 部
	土 谷 健	一般社団法人 バイオマーカー研究会	代表理事	関係なし

区 分	氏 名	兼 職 先 法 人 等	兼職の内容	関 係
理 事	鶴 屋 和 彦	一般社団法人 日本腎臓学会	幹 事	一 部
	友 雅 司	特定非営利活動法人 日本腹膜透析医学会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本 HDF 研究会	理 事	一 部
		認定特定非営利活動法人 腎臓病早期発見推進機構	理 事	一 部
		一般社団法人 日本人工臓器学会	理 事	一 部
	深 川 雅 史	一般社団法人 日本腎臓学会	理 事	一 部
	政 金 生 人	特定非営利活動法人 日本 HDF 研究会	理 事	一 部
	峰 島 三 千 男	一般社団法人 日本アフェレンス学会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本医工学治療学会	理事長	一 部
	森 石 み さ き	特定非営利活動法人 日本腹膜透析医学会	理 事	関係なし
	八 木 澤 隆	公益社団法人 日本透析医会	常務理事	一 部
吉 田 克 法	一般社団法人 日本移植学会	理 事		
	一般社団法人 奈良県医師会透析部会	理事長	一 部	
監 事	穴 戸 寛 治	公益社団法人 日本透析医会	専務理事	一 部
	仲 谷 達 也	一般社団法人 日本泌尿器科学会	監 事	
		一般社団法人 日本泌尿器内視鏡学会	理 事	
		一般社団法人 日本性機能学会	理 事	
		一般社団法人 大阪腎泌尿器疾患研究財団	理事長	
		一般社団法人 大阪泌尿器科臨床医会	副会長(理事)	
		公益財団法人 大阪腎臓バンク	常任理事	
	吉 田 一 成	公益財団法人 かながわ健康財団	理 事	
		NPO 法人 いつでもどこでも血液浄化インターナショナル	理 事	一 部
		一般社団法人 日本移植学会	幹 事	

2. その他の記載事項

その他事業報告の内容を補足する重要な事項はない。